

ひょうご

職親会だより

2017. 8 第39号

※ 兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会(職親会)は精神障害者の就労を支援する事業主の会です。

【目次】

《報告 ①》	平成29年度兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会 (職親会)総会報告	P 1
	○平成28年度事業・決算報告	
	○平成29年度事業・予算計画	
	○役員改選について	
《報告 ②》	講演会「働き続けられる人材とは」	P 5
	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構兵庫支部 兵庫障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 新谷 正樹氏	
	アンケート結果報告	P 8

報告

1

平成29年度兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会(職親会)総会報告

6月28日、平成29年度の総会を開催し、28年度の事業・決算報告、29年度の事業・予算計画、役員改正について承認を受けました。

●平成28年度事業報告

事業名	年 月 日	場 所	内 容
(1) 職親会研 修会等の 開催	28. 5.18(水) (役員会)	精神保健福祉センター	○第1回兵庫県精神保健職親会役員会 参加者13名 【議事】 ・平成27年度事業報告・決算報告 ・平成28年度事業計画(案)・予算(案) ・平成28年度総会・講演会について ・職親会会則改定について
	28. 6.29(水)	兵庫県こころのケアセンター	○平成28年度兵庫県精神保健職親会総会 参加者95名 ・平成27年度事業報告及び決算報告 ・平成28年度事業計画(案)・予算(案) ・職親会会則改定について(団体名の変更) 旧) 兵庫県精神保健職親会 ↓ 新) 兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会(職親会) ○兵庫県精神保健職親会講演会 「働いてみよう、続けてみよう、続けてもらおう」

			・講演「こうすればできる、仕事が続けられる」 ～精神障害のある方が働き続けるために、周囲ができること～ 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター研究企画部研究部門 (事業主支援部門) 岩佐 美樹 氏
	28. 12. 7(水)	精神保健福祉センター	○第2回兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会(職親会)役員会 参加者11名 【議事】 ・平成28年度事業中間報告及び平成29年度事業予定について ・地域研修会について ・役員改選、今後の方向性について
	29. 2. 17(金)	兵庫県農業共済会館	○兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会(職親会)地域研修会 参加者67名 ・講演「リカバリー志向の就労・定着支援」 特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構 事務局長 桶谷 肇 氏 ・当事者体験発表 「働くこととリカバリー～当事者の視点から～」 有限会社サポートセンターれいめい 坂田 泰智 氏 赤藤 英樹 氏 ・対談「働くこととリカバリー」 特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構 事務局長 桶谷 肇 氏 有限会社サポートセンターれいめい 坂田 泰智 氏 赤藤 英樹 氏
	29. 2. 17(金)	兵庫県農業共済会館	○第3回兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会(職親会)役員会 参加者7名 【議事】 ・役員改選について ・平成29年度役員会及び総会について
(2) 機関誌 「ひょうご 職親会 だより」 の発行	28. 8 29. 3	・ひょうご職親会だより 第37号 2,500部 職親会会員・賛助会員、健康福祉事務所、ハローワーク、社会福祉協議会等約450箇所に配布 ・ひょうご職親会だより 第38号 2,500部 職親会会員・賛助会員、健康福祉事務所、ハローワーク、社会福祉協議会等約450箇所に配布	
(3) 役員・会員の派遣 (他機関協力)	28. 6. 25(土) 28. 7. 19(火)	全国精神障害者就労支援事業所連合会東京事務所 兵庫県公館	全国精神障害者就労支援事業所連合会総会 (野村会長出席) ○平成28年度ひょうごユニバーサル社会づくり推進大会及び第24回福祉のまちづくりセミナー (野村会長出席)

平成28年度 決算報告

(収入の部)

(単位：円)

区 分	項 目	決算額	摘 要
事業収入		628,000	
	会費収入	39,000	3,000×13口
	賛助会費収入(団体)	33,000	3,000×11口
	賛助会費収入(個人)	56,000	1,000×56口
	委託費	500,000	兵庫県 500,000円
事業外収入		6	
	雑収入	6	貯金利息等
小 計		628,006	
繰越金	前期繰越金	719,750	前年度から
計	(A)	1,347,756	

(支出の部)

(単位：円)

区 分	項 目	決算額	摘 要
事業費		388,656	
	普及啓発費	180,144	情報誌「ひょうご職親会だより」発行
	講演会費	176,192	講師謝金、旅費、会場使用料等
	研修会費	32,320	研修会参加費、旅費等
運営費		237,963	
	役員会費	13,880	旅費
	事務費	196,009	用紙等の各種消耗品、郵送費(たより、研修案内)等
	需用費	28,074	封筒印刷等
分担金	分担金	20,080	全国精神障害者就労支援事業所連合会団体会費
小計	(B)	646,699	
繰越金	次年度繰越金	701,057	次年度に繰越(A) - (B)
計		1,347,756	

当会の活動費は、会費・賛助会費、県委託費によって賄われています。

平成28年度は収入628,006円に対し、支出は646,699円でした。

主な支出は講演会・研修会の開催、機関誌「職親会だより」の発行などでした。

平成29年度は、事業収入を615,000円、事業外収入を10円と見積もっています。それに平成28年度繰越金701,057円を加え、1,316,067円の予算となっています。



平成29年度事業計画

- 1 定期総会及び講演会の開催（平成29年6月28日）
- 2 地域研修会の開催
 - ※設立20周年記念大会として実施する
 - ※日時：平成29年11月12日（日）午後
 - 会場：兵庫県民会館 けんみんホール
 - 内容：記念式典、講演
 - 講師：（社福）浦河べてるの家 向谷地生良氏、他
- 3 『ひょうご職親会だより』の発行（年2回）
- 4 会員の拡充
- 5 NPO法人全国精神障害者就労支援事業所連合会（全国職親会）への参加
- 6 関係機関との連携・協力
- 7 役員会の開催



役員改選について

平成25年度より当会監事としてご尽力いただいていた一般社団法人わーくわくねっとの三木章弘さんが退任されることになりました。今までありがとうございました。

今年度からは、平成25年度より理事としてご活躍いただいています社会福祉法人阪神共同福祉会の中村大蔵さんが新副会長に就任されます。また新監事には一般社団法人わーくわくねっとの川上真一さんが就任されます。みなさん、今後ともよろしくお願いします。

役 職	地 区	氏 名	事業所名
相談役	加古川市	森 本 稔	株式会社サウンドスパイス
会 長	姫 路 市	野村 浩之	有限会社サポートセンターれいめい
副会長	神戸市西区	石井 建三	イシイメディカルサービス株式会社
副会長	尼 崎 市	中村 大蔵	社会福祉法人阪神共同福祉会
理 事	小 野 市	西村 厚一	西村牧場
監 事	た つ の 市	宮崎 宏興	特定非営利活動法人いねいぶる
監 事	姫 路 市	川上 真一	一般社団法人わーくわくねっと



総会後の講演会では、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構兵庫支部 兵庫障害者職業センターの新谷正樹氏を講師にお招きしました。精神障害者の就労定着支援について、事業主、当事者、支援者それぞれの立場からどのような視点が必要なのか、ご講演いただきました。

報告 2

講演会「働き続けられる人材とは」

～職場で求められる人材とは 企業の立場から、
当事者の立場から、支援者の立場から～

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構兵庫支部 兵庫障害者職業センター 新谷 正樹 氏

精神障害者雇用の最近のトピックス

- ・ハローワークの調査によると、ここ10年で精神障害者の雇用数が大幅に増加している。
- ・障害者雇用促進法改正ポイントは精神障害者の雇用義務化及び法定雇用率の引き上げ（H30年4月～2.2%、H33年度末までに2.3%）
- ・雇用数の増加の一方離職数も増加、職場定着も重要視し始めている。



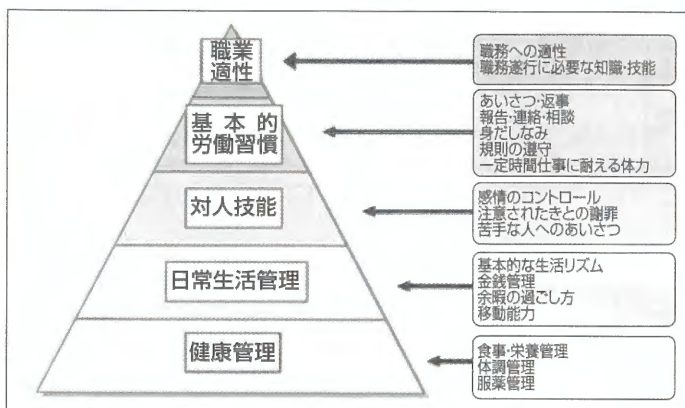
精神障害者の継続就労状況

- ・2010年の継続就労期間調査によると、36%が3ヶ月未満で離職、50%が1年未満で離職している。つまり、初めの3ヶ月をいかに乗り切ることが重要。
- ・1ヶ月未満の離職理由は「思っていた仕事内容やマッチングと違う」が多い。その内容を詳しく分析すると、実際には生活リズムが構築できていなかったり、自分にあった職業選択ができていない可能性があることがわかってきた。
- ・紹介数が多い人ほど離職が多い。十分な相談や振り返りがなければ再就職を繰り返している可能性大。

体調管理・生活リズムの構築

- ・職業準備性のピラミッド（健康管理、日常生活管理、対人技能、基本的労働習慣、職業適性）が全てできている必要はないが、継続勤務を下支えする上で重要である。
- ・体調管理は重要で、生活リズムを立てることによるメリットは大きい。副次的にも生活リズムが整えば服薬時間を一定にすることができ、結果として病状安定につながる。
- ・体調に多少の波があっても仕事に影響しなければ就労は可能だし、早期に体調を取り戻せば離職に至らずに済むことも多い。体調を崩すサインを知り、どうすれば大きな落ち込みを防げるかを知ることが重要。

職業準備性ピラミッド



安定した職業生活を継続するために必要な個人の要件

生活リズムの構築

- 通勤時間の1時間前に起床し、23時までに就寝できる。
- 決まった時間に食事をする事ができる
- 通院日以外に毎日30分以上外出ができる
- 家族以外の人と定期的に交流している
- 1日5000～10000歩歩き、1時間に3～4歩歩くことができる
- 4時間は集中して課題に取り組める
- 自分の体調、行動を振り返ることができ、対処ができる

メンタルヘルス入門(鳥居)を改編

各種シートの活用を

- ・職業準備性の確認には「振り返りシート」や「MSFASシート」等の活用してみる。
 - 振り返りシート……本人につけてもらい課題の振り返りを行ったり、本人・支援者それぞれが評価して、両者ですり合わせる方法もある。
 - MSFASシート……ストレス疲労アセスメントシート。アンケート方式でストレス場面を描きだしてもらい支援者と一緒に対処方法を検討する。

マッチングの難しさについて

～本人側の思い～

- ・求人票に書かれている情報が多く、何を重視して選べばいいのかわからない。
- ・自分の能力や適性がよくわからない。
- ・仕事の格好良さや給料の高さに惹かれ、周囲との相場観や比較が出来ない。
- ・焦りや不安感、周囲に認められたい気持ちが強い。
- ・職歴がある人は、「現在」ではなく「その当時」を基準に考えてしまう傾向がある。



～企業側の思い～

- ・求人が多いサービス業では、即戦力が必要。
- ・障害者が育つのを待っている余裕がない。

～精神障害者の職務～

- ・精神障害者は、定型作業が向くことが多い。
- ・職務別にみると、事務補助、清掃や営繕等の環境整備、品出し等のバックヤード業務の職務についている人が多くなっている。
- ・臨機応変な対応を求められる業務は苦手。



自己理解と適切なマッチングのために

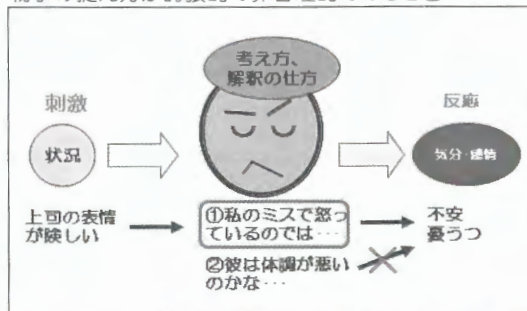
- ・問題意識の共有が前提。
 - 例 本人にどんな困り感があるか。長く勤めたい意思があるかどうか等。
- ・次に自己理解を促すための取り組み。
 - 例 施設内での作業や職場体験実習から、本人の得意不得意なところを振り返る。
 - 例 職歴を振り返って離職理由を洗い出す。共通点が見つければそれがウィークポイント。
- ・ツールの活用。
 - 例 ナビゲーションブック（「得意なこと」「苦手なこと」等を具体的に書き出した自分の取扱説明書のようなもの）を書いてみると、その過程で自己特性を知ることが可能。

ナビゲーションブックの記入例②

事項	自分の得意	自分の対処法	得意に配慮を依頼したい事項
作業面	①口頭だけの指示はわからない。 ②作業や物品の配置変更は変えられる。 ③疲労感が高くなるミスが出やすい。 etc	①できるだけメモを取る。 ②変えた時は背筋を伸ばす。 ③手順書を確認する。 etc	①ひとつひとつ指示を出して欲しい。 ②変えた場合は目印をつけて欲しい。 ③ミスが出ている時は指摘や協力をして欲しい。
対人面	①わからないのについて返事をしづらい。 ②グループ行動が苦手。 etc	①相手に「今のところ」と言葉を添える。 ②— etc	①できているか見に来て欲しい。 ②グループ行動がないような環境が良い。 etc
思考や行動	①抽象的な表現はどうしてよいかわからない。 ②急に行動したくなる。衝動的。 etc	①自分が不安なことを紙にまとめる。 ②後で後悔しないか考える。 etc	①— ②後悔するかどうか考えられないとき、声をかけて欲しい。 etc

認知の歪み

物事の捉え方が誇張的で非合理的であること



認知の歪みについて

- ・認知の歪みとは、物事の捉え方が誇張的で非合理的であること。
- ・ストレスを抱えやすい認知のクセには、「べき思考」「白黒思考」「結論の飛躍」「根拠のない決めつけ」「マイナス思考」「過大又は過小評価」等がある。
- ・知的障害者には「実際の作業」に関する支援が多いのに比べて、精神障害者には「認知の修正」に関する支援が多い。

認知の歪みに対するアプローチ

- ・まず自分の認知のクセを知る。幅広い考え方に修正するのに「認知行動療法」が有効。
 - 他者ならどう行動するか、アドバイスするならどのように行うのか、を具体的に考える。
- ・ただし、認知はこれまでの積み重ねなので、短日での修正や改善は難しいこともある。
 - 認知行動療法が難しい人には、関係を構築した上で振り返りやフィードバックを行っていくことも有効。継続的な相談で対応していくことが大切。
- ・職場環境（職場での受け入れられ感など）は認知の修正に役立つ。



定着支援に向けて

- ・本人の残存能力・基礎的能力以外に、職場の環境整備が大きく影響する。事業所を巻き込み、ケアが行き届く環境になれば、定着は進む。
- ・ジョブコーチ支援事業による具体的な取り組み紹介
 - ★職場にジョブコーチを派遣し、障害者の特性や環境の状況に合わせて職場適応のための具体的・直接的な支援を行っている。障害者本人に対しては作業遂行支援や人間関係の形成支援等を、企業に対しては障害の理解促進や職務内容の設定、本人への接し方の助言等を行う。
 - ★定期的な面談を実施することで職場定着率は上がる。現状の確認、本人へのフィードバックにより問題を早めに解決することができ、また認知の歪みを修整することができる。
 - ★ジョブコーチは永久的な支援ではないので、職場にも本人との面談や現状確認により支援を担って欲しいと伝えている。
- ・支援者は、本人の特性等をしっかり事業所に伝えることが重要。それが事業所側の安心感につながる。
- ・企業の受け入れ力を高める方法として支援機関の見学やジョブコーチや定着支援等の各種支援策の活用などがある。また、社員を対象とした受入前後研修を実施し、事業所が取組むべき合理的配慮について社員の理解促進を深める方法もある。



医療機関との連携

- ・現状把握、医療上の配慮点、禁忌事項の確認のため、主治医と連携がとれることが望ましい。
- ・個人情報の問題や事業所の負担を考えると支援機関に介入してもらうことも手。
- ・危機対応についても不調時の連絡体制の構築も含め関係機関とは継続的なコミュニケーションをとることが望ましい。

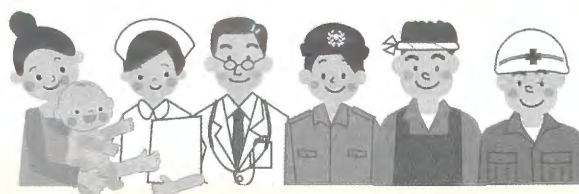
支援機関への期待

- ・支援機関を活用した場合の定着率は格段に高い。理由として支援者が関わることで、職業準備性の構築、ストレス対処の準備が整った状態での就職が期待できる。支援することで課題への対応ノウハウが蓄積され、問題解決がスムーズになる。
- ・困った時に相談する支援者がいることで、安易な離職の防止、問題の早期解決が期待できる。
- ・事業主に対してもナチュラルサポートを引き出しやすく、事業所の不安を軽減できる。

質疑応答

Q：精神障害者を数名雇用しているが、支援者との連携が不可欠だと痛感。6年目になるが最初は関係機関の存在も知らなかった。医療機関との連携が難しい。主治医との連携は必要だろうが、個人情報の関係でどこまで話してもらえるのか。

A：主治医と直接話すのがベストだが、本人に手紙を渡して主治医に渡してもらう方法もある。本人の受診日を確認し、受診の際に本人から聞いてもらう。また、本人同席であれば話す、という主治医もいる。情報の取り方の必要性によっても変わってくる。支援機関をうまく使う等、使い分けるとよい。



講演会 アンケート結果

【参加者所属】

参加者：105人 回答者：69人 ※（ ）内は%

項目	協力事業所	企業	福祉施設	家族会	行政	医療機関	その他	無回答	合計
人数	1(1.4)	3(4.3)	40(57.9)	0(0)	8(11.7)	4(5.8)	8(11.7)	5(7.2)	69(100)

【講演内容について】

項目	大変参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	よく分からなかった	無回答	合計
人数	24(35.0)	40(57.9)	1(1.4)	1(1.4)	3(4.3)	69(100)

【自由記載】

※（ ）内は所属

- ▶ 認知の歪みの対処の参考にしようと思う。分っていても同じような思考に陥るので、歯止めをかけるためにも訓練したい（当事者）
- ▶ 企業の立場で障害者雇用をすすめる上で、支援者との連携が不可欠と理解できた。環境づくりによって、能力の発揮と定着につながる事がわかった（企業）
- ▶ 働く前の準備、定着のための支援機関の必要性を感じた。自己理解に加え、職場環境を整える重要性を感じた（福祉施設）
- ▶ いかに職業準備が大事か、「マッチング」「認知の修正」など勉強になった。面談で早期に発見することを実践したい（福祉施設）
- ▶ MSFASシートや振り返りチェックシート等視覚化や具体的な対応について多くのヒントを得ることができた（福祉施設）
- ▶ 今後、ジョブコーチの実践や定着者の体験談、企業側の障害者雇用の取組みについて、企業の話を知りたい（福祉施設）

※その他、非常にたくさんのご意見をいただきました。ありがとうございました。
今後もよりよい研修ができるよう努力していきます。

★当会設立20周年記念大会のご案内 ～浦河べてるがやってくる!～★

来る11月12日（日）県民会館（神戸市中央区）にて、当会設立20周年記念大会を開催します。
精神障害者の就労支援の歴史や当会のこれまでの歩みを振り返る記念式典、そして記念講演には北海道浦河町にある「べてるの家」の向谷地生良氏と当事者の方をお迎えします。
精神障害者がその人らしく生き生きと暮らす浦河の取り組み、そこに暮らす当事者さんの「働く」ということへの思いを是非お聞きください。

【発行】兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会（職親会）

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2（兵庫県精神保健福祉センター内）

Tel 078-252-4980 / Fax 078-252-4981